

先進地紹介

持続可能な次世代型コンパクトシティ

— 静岡県藤枝市におけるスマート・コンパクトシティの形成に向けた取り組み —

つくばみらい市都市建設部都市計画課 主事 小松 千尋

令和4年10月25日に、公益財団法人都市計画協会主催の第53回まちづくり拝見研修会（藤枝市）に参加しました。本稿では、「第1回コンパクトなまちづくり大賞 総合戦略部門 国土交通大臣賞」を受賞し、国土交通省「スマートモデルシティ事業」の先行モデルプロジェクトに選定された藤枝市の取り組みを紹介いたします。

■藤枝市の概要

藤枝市は、静岡県の中央に位置し、人口14万人が暮らしています。藤枝東高校などの活躍により、全国的にはサッカーのまちとして知られています。

■藤枝市の課題と政策方針

藤枝市では、2015年をピークに人口減少が始まり、高齢化率の上昇や人口の市外流出など様々な課題に直面するようになりました。こうした状況に対応するため、藤枝市はまちづくりのあり方を見直し、将来を見据えた「集約型都市構造（コンパクトシティ）」へ転換を図りました。

コンパクトシティの実現にあたって、藤枝市では「**藤枝型コンパクト+ネットワークによる独自の都市形成**」と「**ふじえだスマート・コンパクトシティの形成**」の2つの政策方針を掲げ、都市機能の集約や中心市街地活性化に取り組んでいます。

具体的な取り組みとしては、市内にある既存の公共ストックに対して民間活力を導入し、官民連携となった拠点整備事業を進めています。また、まちづくりに対するICT活用も積極的に展開しており、安全・快適・便利が揃った“選ばれるまちづくり”を目指しています。

■藤枝市の施策

①中心市街地活性化の取り組み

藤枝市では、平成20年に第1期藤枝市中心市街地活性化基本計画を策定し、ハード整備とソフト事業合わせて72事業を推進しました。

計画を進めるにあたり、藤枝市は都市計画法や建築基準法の規制緩和、事業採算性の確保といったバックアップを実施し、民間活力を導入した官民連携での拠点づく

りを推進しました。この結果、低未利用地となっていた市有地の活用が進み、複合施設「Bivi藤枝」や市立駅南図書館、ホテルオーレを始めとする様々な拠点が誕生しました。現在、藤枝市中心市街地活性化計画は第3期目を迎えています。今後も賑わい創出と回遊性のあるまちづくりに取り組んでいく方針です。



ホテルオーレの外観



市立駅南図書館(Bivi藤枝内)

②スマートシティモデル事業の取り組み

藤枝市では、全国に先駆けて産業競争力の向上や人材育成の分野にICTを活用し、「ICTで人の流れを呼び込むまちづくり」を推進してきました。2016年には、全国で初めてソフトバンク社と包括連携協定を締結し、ICT教育や健康推進、危機管理など様々な分野にAIやIoTを活用した施策を導入してきました。

また、地域課題や社会課題を解決するため、大学やベンチャー企業とのマッチングにも取り組んでおり、地域から技術革新を創出する環境を提供しています。このように、ICTを活用したまちづくりによって、都市機能の強靱化を図り、市民が安心・安全を構築できる環境が整えていくことは、自治体としての競争力向上にも繋がっていくと感じました。

■おわりに

今回、藤枝市が10年以上前から将来を見越して戦略的にコンパクトシティに取り組んできた様子を拝見することができ、非常に参考になりました。将来を見据え、戦略を持ってまちづくりに取り組む視点を持ちながら、日々の業務に取り組んでいきたいと思



まちづくり拝見研修会の様子

